

市民と市長の

対話集会

- 都市基盤/行政経営

2024.08 芦屋市



① そもそもなぜ、対話集会なのか

② 私たちの考えている施策

③ みなさまとの対話

Why “Dialogue”

そもそもなぜ、対話集会なのか

1





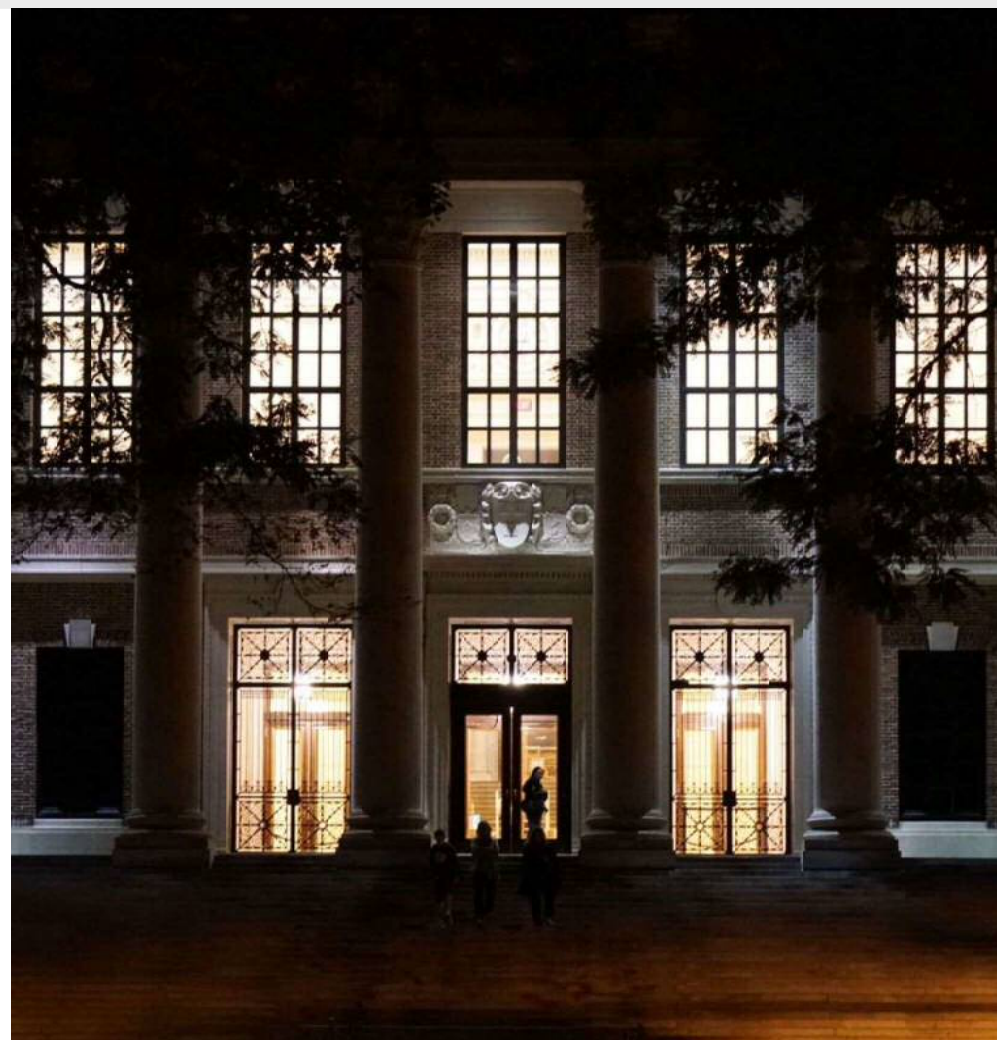
対話を通じて
芦屋の未来を
一緒に創りたい

つくりたいのは、
要望の場ではなく
対話の場

Policy

私たちの考えている施策の一部ご紹介

2



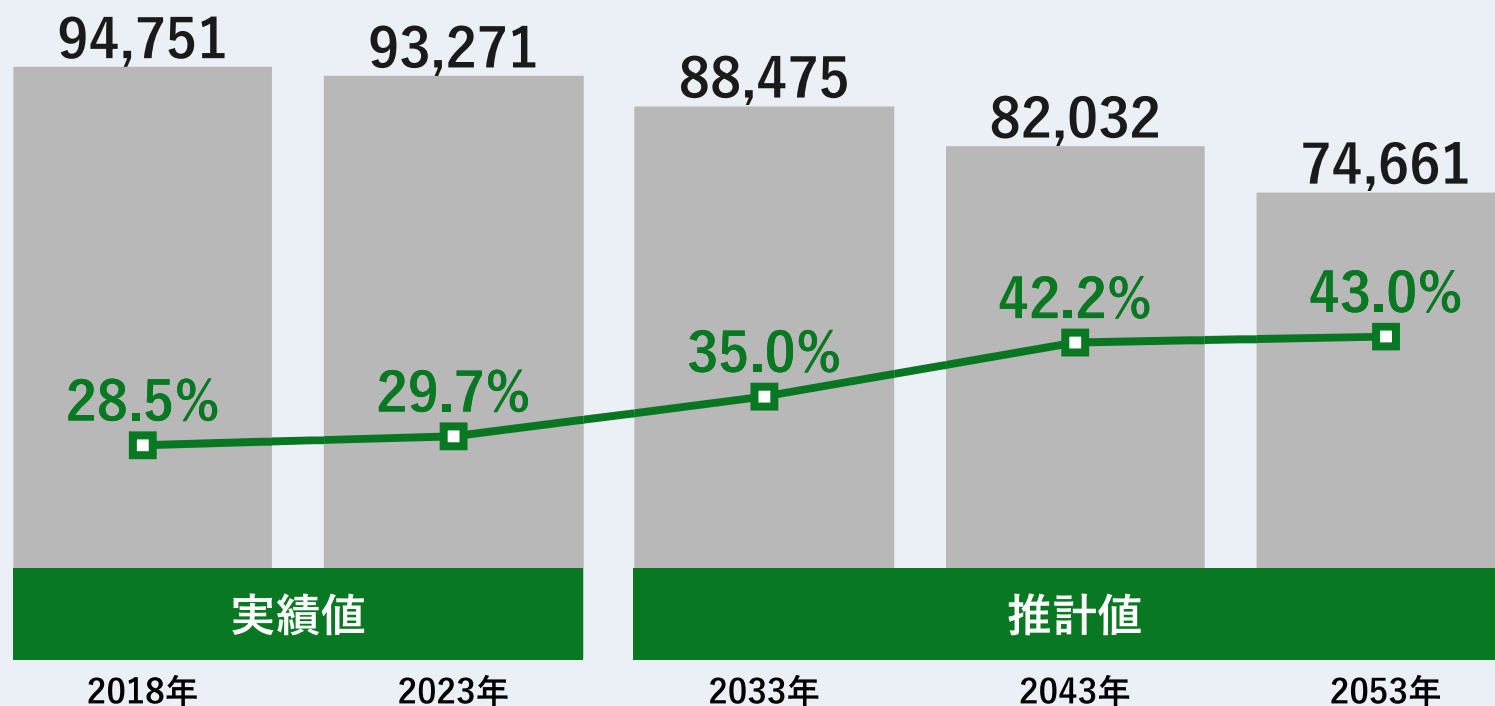


1

持続可能な芦屋市への経営

人口減と高齢化がどんどん進む芦屋市

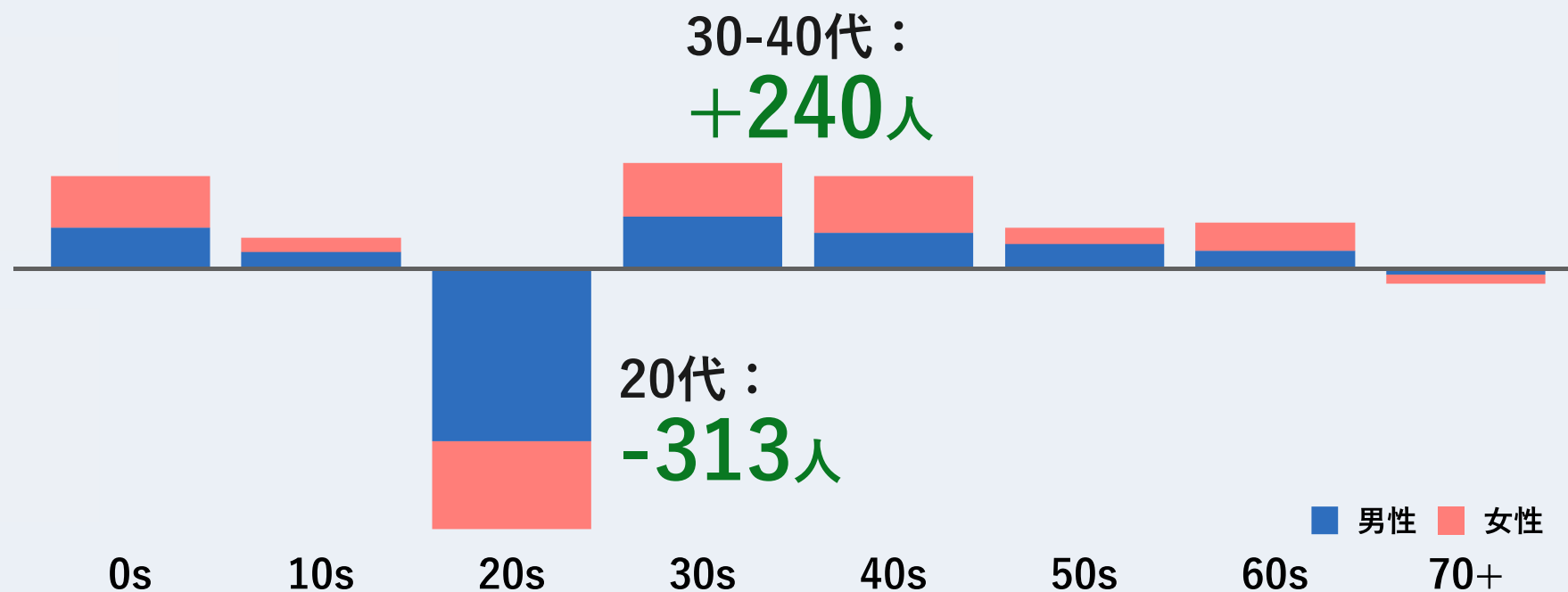
人口・高齢化率将来推計（現状の政策がうまくいった「出生数増」「社会増」の場合）



個人市民税で
成り立っている芦屋。
いまこそ、未来への投資を

流出する20代、流入する30-40代

男女別転入超過数（2020-2023年の平均値）



1

だからこそ、
子育て・教育をより充実し
選ばれる芦屋へ

「ちょうどの学び」を公立校で

- ▶ こどもに向き合うための先生の働き方改革
- ▶ 先生が新たな学びを探究できる場づくり
- ▶ PEACEサポーターが全校で心のケアを担当



住み続けたい街、
芦屋

芦屋市ふるさと納税

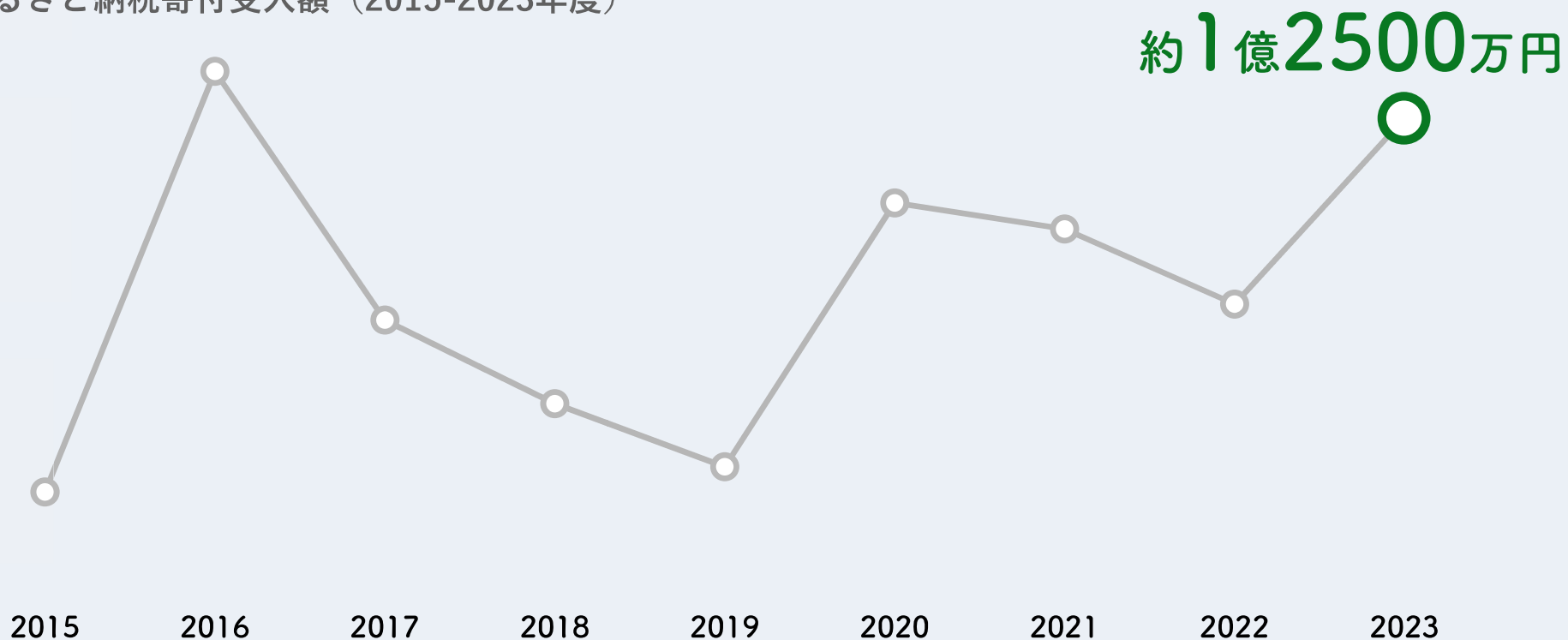
芦屋市



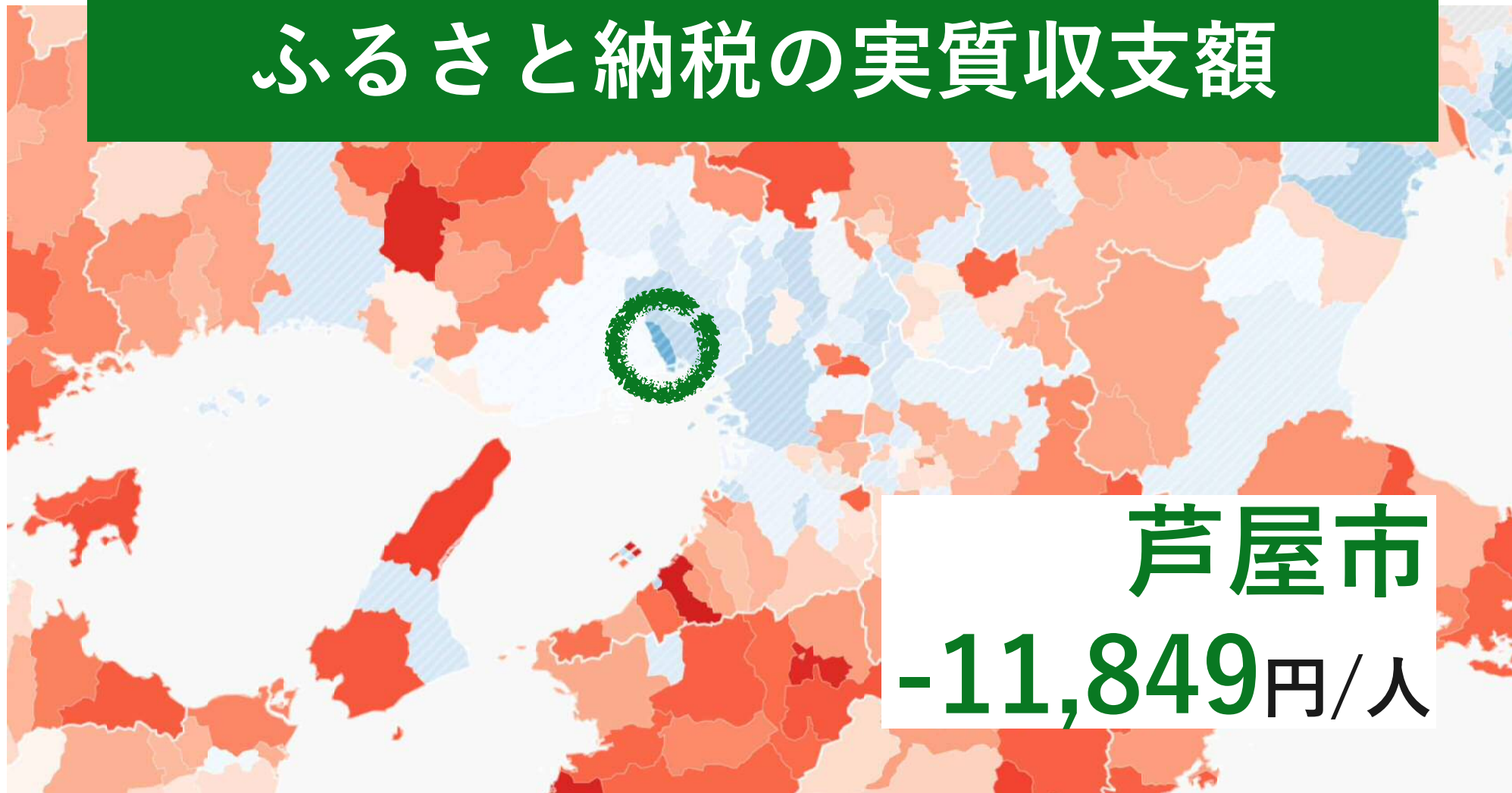
芦屋の教育をよくすれば、
日本の教育が変わります。

ふるさとと納税の寄付受入れは徐々に増加

ふるさとと納税寄付受入額（2015-2023年度）



ふるさと納税の実質収支額



“税金がどう使われているか、
芦屋の未来にどう繋がるか、
よく分からない

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

～ONE STEP! 夢中になって学ぶ楽しさを～

って何?



2

広報発信の充実で、
頂いた税金/寄附の使い道を
できるだけ分かりやすく示す

3

時代変化を踏まえた
事業の再構築。

一人ひとりへの給付から
環境に対する投資へ転換



2

みどりと景観を大切にする芦屋

市民評価が高いのは景観や自然、みどり

市全体のまちづくりの評価で「満足」「やや満足」と答えた割合（2020）

自然景観の美しさ

88.1%

緑や花の美しさ

83.9%

建築物などの美しさ

82.0%

自然環境の保全

82.0%

市全体が「景観地区」

■H21.7～ 景観地区

市全体に保全すべき／
今後育成を図るべき
景観がある

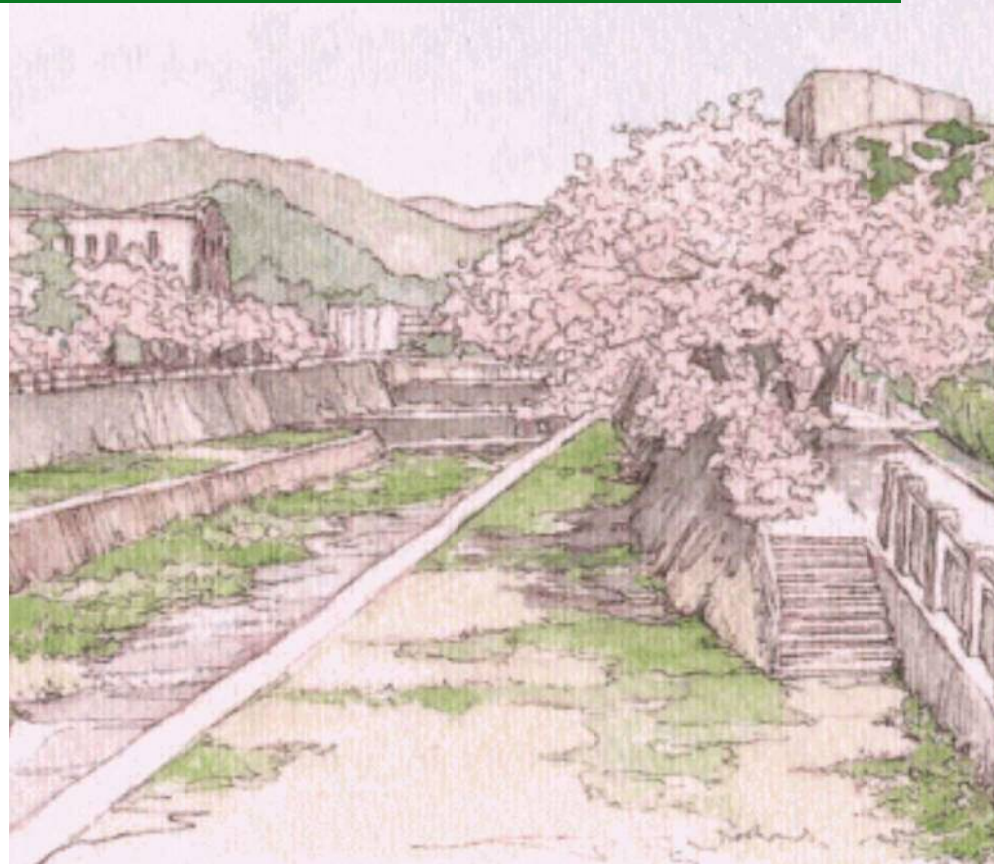
■H24.4～

芦屋川特別景観地区



市民 事業者 役所でまちなみを守る

まちなみは芦屋の文化。
でも、役所の定める
ルールだけでは
守るのは困難。
みんなで考え、
未来を描きませんか



みどりを、さらに大切に

「六甲山の緑」

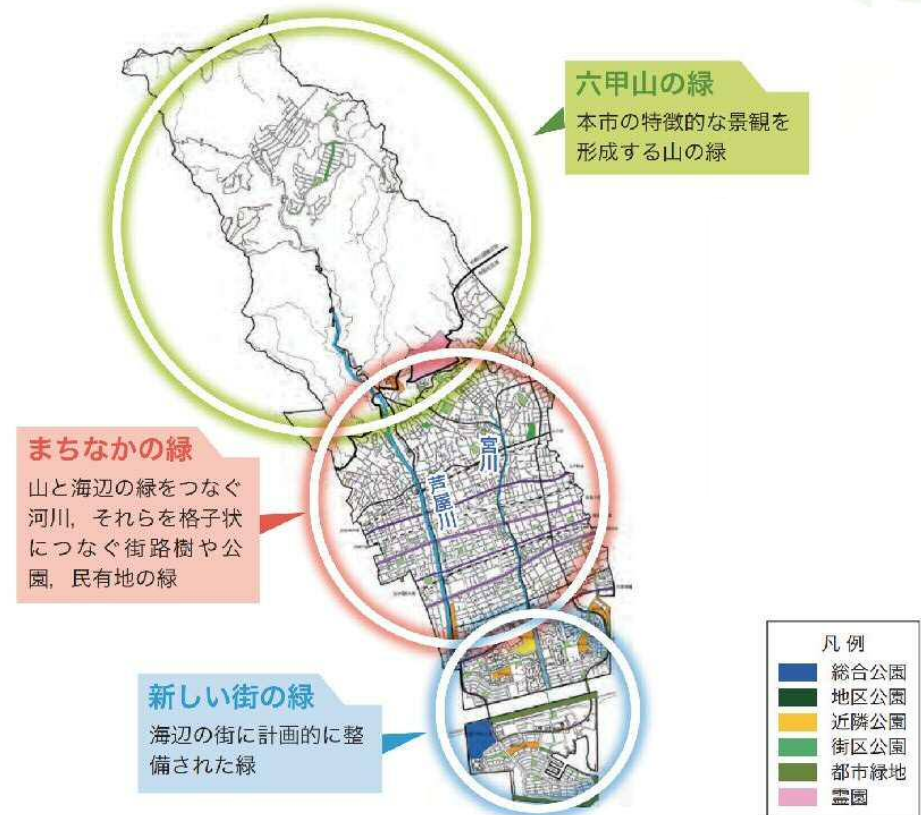
「まちなかの緑」

「新しい街の緑」

それぞれの地域に合った

みどりとともに

守り、創り、育みましょう



Dialogue

みなさまとの対話

3



つくりたいのは、
要望の場ではなく
対話の場

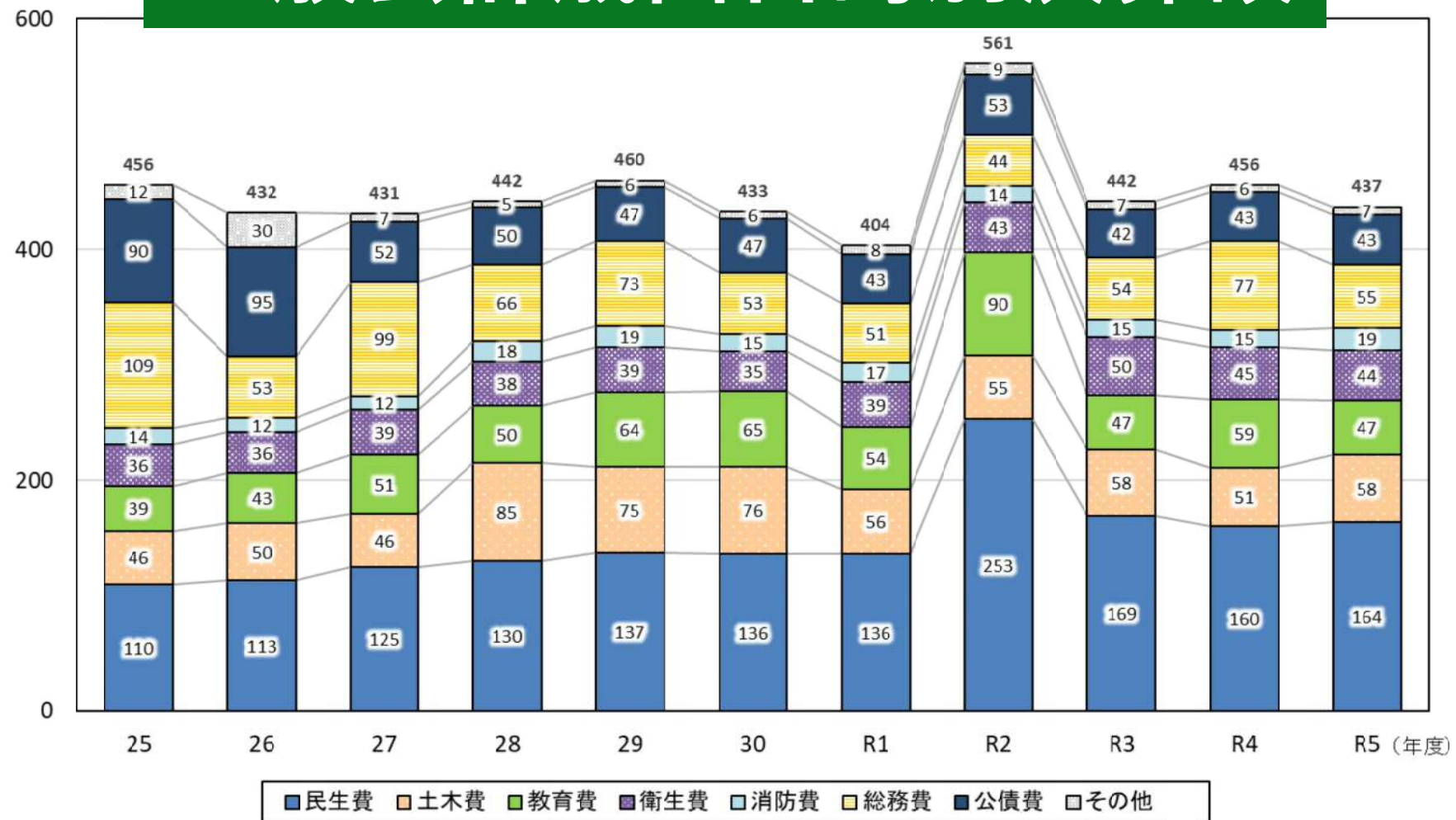
お願いしたいこと

- 話は短めに！（話しすぎに注意しましょう）
- 違って当たり前！（否定より提案を）
- みんなで学び合う！（知らなくて当たり前）
- 話をつなげる！（対話を楽しみましょう）

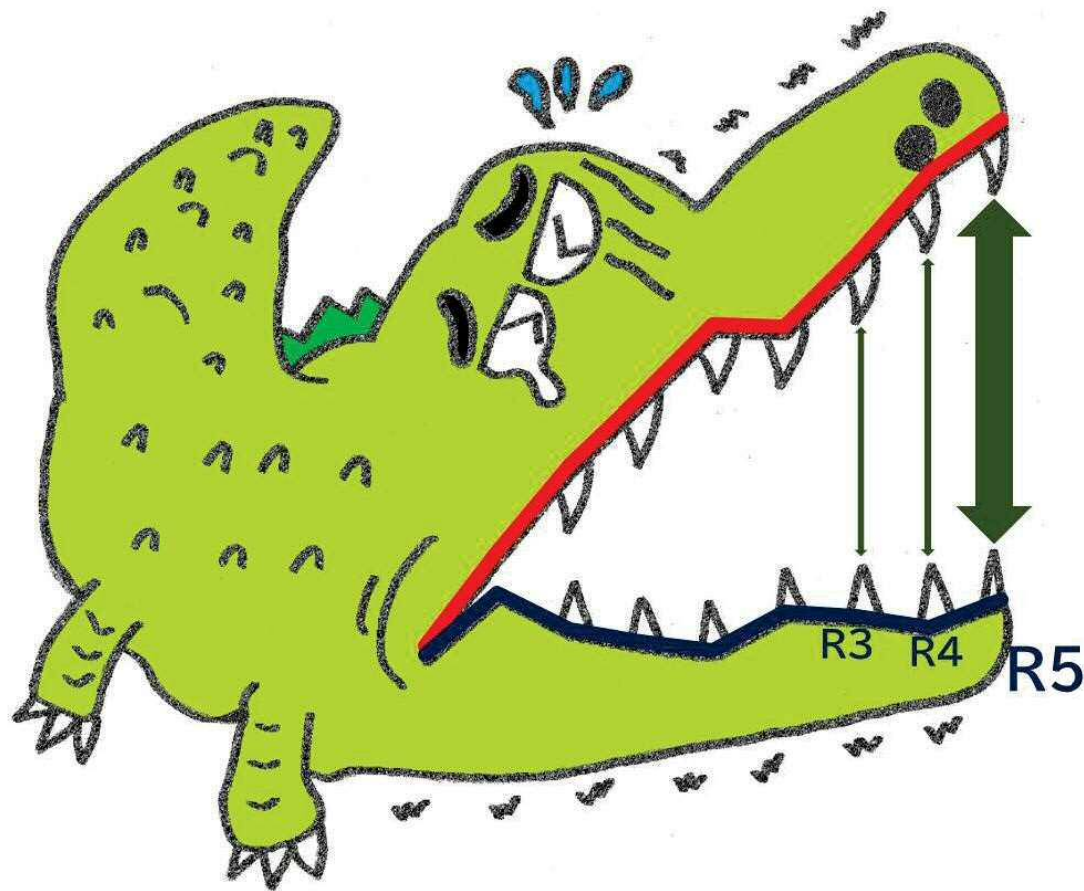
参考資料

一般会計歳出目的別決算額

(億円)



ふるさと寄附による市民税減収



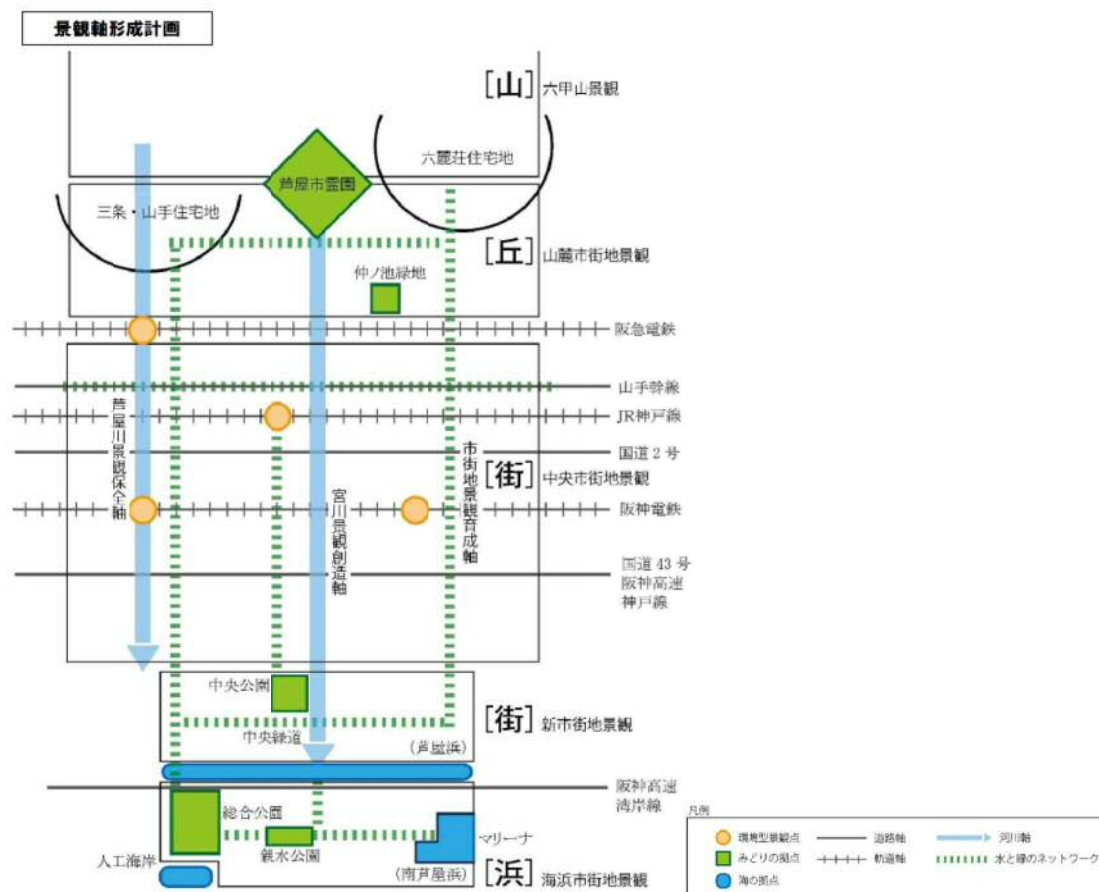
ふるさと寄附による
市民税の減収額

令和5年度の実質減収額は

8.5億円

芦屋市への
ふるさと寄附金額

風致地区と景観地区



法・総合計画	景観みどりの計画・指標	規 制
(S26) 芦屋国際文化住宅都市建設法 (S39) 芦屋市民憲章 (S45) 全市公園化構想、自然の中のまちづくり		
(S46) 総合計画 「品位と風格のある個性豊かな住宅都市」 - 自然と調和した緑豊かな美しいまち - 都市機能の充実した住みよいまち - 豊かな人間性と文化をはぐくむ健康なまち		(S48) 緑ゆたかな美しいまちづくり条例 (S49) 芦屋市宅地開発等指導要綱、 芦屋市日照障害等の防止に関する指導要綱 (S53) 芦屋市住みよいまちづくりに関する指導要綱
(S61) 新総合計画 「誇りと愛着を感じる魅力ある国際文化住宅都市」 - 緑豊かな美しい自然に恵まれた特性を生かし、自然と調和した美しいまちづくり・全市を緑で包むまちづくり - 優れた自然環境のもとで、市民一人ひとりがたがいに協調し、まちを愛し、香り豊かな文化を創造することができる清潔で健康なまちづくり	(S61) 緑のマスタープラン - 都市公園の敷地面積（6㎡/人） (H5) 芦屋市都市緑化推進基本計画 「花と緑いっぱいのもちづくり」10万本植樹 (H8) 芦屋市景観形成基本計画	(H8) 芦屋市都市景観条例 (H12) 芦屋市住みよいまちづくり条例
(H13) 第3次総合計画 「知性と気品に輝く活力ある国際文化住宅都市」 - 心豊かに安心して暮らせるまち - 自然環境を暮らしに活かすまち - ふれあいと文化を育てるまち (H16) 芦屋庭園都市宣言	(H20) 芦屋市緑の基本計画 - 市街化地域の緑209ha→269ha - 都市公園の敷地面積11㎡/人	(H21) 全市景観地区指定 (H24) 芦屋川特別景観地区指定
(H23) 第4次総合計画 「 自然とみどりの中で絆を育み“新しい暮らし文化”を創造・発信するまち 」 - 自然と緑を大切にする「心の文化」を育み、知性と品格に溢れた人に優しいまち	(H26) 景観行政団体に移行	(H28) 屋外広告物条例施行
(R3) 第5次総合計画 「 人がつながり誰もが輝く笑顔あふれる住宅都市 」	(R3) 芦屋市緑の基本計画改定(R3-12) - 緑の質を高めて幸せを育むまち - 緑の「量」から「質」へ	



避難

在宅避難のススメ

大規模災害が発生したときには、避難所に被災者が殺到し、混乱の発生が予想されます。また、避難所生活ではプライバシーなどの確保が難しい場合があります。避難所生活のストレスを考えると、自宅の安全性が確保されていれば、住み慣れた自宅で避難生活を続けることも選択肢のひとつです。いざというとき、在宅避難を可能にするために、事前に準備しておきましょう。

在宅避難ができるか事前に確認



自宅が安全か確認する

●災害の危険がある地域に自宅があるか防災情報マップを使って調べましょう。

Check ☒ 自宅に災害の危険がない

●在宅避難を選択するには、自宅の安全性を確保することが前提です。

Check ☒ 自宅は耐震化されている(地震の場合)



まずは1か所片付けよう

部屋の中のを減らす、散らかったら片付けるといった普段からの整理整頓が家の中の安全性を高めます。けがの予防はもちろん、被災後の片付けの大変さも軽減してくれます。また、家具類の転倒防止、ガラスの飛散防止などの安全対策をしましょう。

Check ☒ 被災後、過ごす部屋を決めて片付けている

Check ☒ 家具・家電の転倒防止がされている(地震の場合)

水・食料の備蓄

最低でも3日分、できれば1週間分×家族の人数を備蓄しておきましょう。

Check ☒ 水・食料の備蓄がある

ライフライン停止への備え

断水が発生



断水や停電によりトイレが使用できなくなったときのために、**1日5回×1週間×家族の人数**を目安に、簡易トイレ(携帯トイレ)を用意しておきましょう。

停電が発生



懐中電灯や乾電池を用意しておきましょう。また、テレビからの情報収集ができなくなります。停電時でも情報を得られるように、携帯ラジオやモバイルバッテリーなどを備蓄しておきましょう。

ガスも電気も止まった



カセットコンロやガスボンベを備蓄しておきましょう。調理だけでなく、お湯を沸かすのにも利用できる、例えば、湯たんぽなどを用いて、真冬は暖をとることができます。

Check ☒ ライフライン停止への備えがある

☒ 全てチェックがついた方は、在宅避難を検討してみましょう！

災害時のチェックポイント

在宅避難の準備をしても、被災状況によっては、自宅にとどまることが難しい場合があります。在宅避難をするかどうか次のようなポイントを判断の基準にしましょう。

ポイント1 危険を見極めましょう

- ☐ 自宅の家に被害はないか、倒壊のおそれはないか。
- ☐ 隣家の倒壊などで自宅に影響はないか。
- ☐ 火災・津波などの二次被害の心配はないか。

不安に感じたり、危険と判断したら避難所など安全な場所へ避難しましょう。

ポイント2 生活ができるか確認しましょう

- ☐ 部屋、備蓄が問題なく使用できるか。
- ☐ 他人のサポートがなくても、暮らせそうか。

自宅での生活ができなければ避難所など安全な場所へ避難しましょう。

避難所を活用しよう

ポイント1 避難者カードを避難所へ提出することで必要な支援を受けられる場合があります。



ポイント2 在宅避難では、支援物資や情報が行き届かない場合があるので、積極的に避難所とつながりを持つことが重要です。

ポイント3 避難所にはいろいろな人が集まっています。困ったことがあれば、避難所運営者や行政職員等に相談しましょう。



災害時は助け合いが大切です。在宅避難を選択している場合でも、自分や家族の安全を確保できたら、ご近所や地域で助けが必要な場面では積極的に協力をしましょう。

被災時に活躍する道具

①あると便利な調理道具

ピーラーとキッチンバサミ

雑菌が繁殖しやすいまな板を使わずに調理できます。

鍋や深めのフライパン

カセットコンロでお湯を沸かすのにもポリ袋料理にも使えます。



②節水のポイント

水で洗えないときに次のような節水の工夫があります。

- ・食器にラップをかぶせる
- ・ウェットティッシュでスプーンを拭く
- ・使い捨て手袋をして調理する
- ・フライパンにアルミホイルを敷く

お風呂やシャワールの代わりに

体を清潔に保つためにもドライシャワーやクレンジングシート、赤ちゃん用のおしり拭きシートなどがあると便利です。

③簡易トイレの使い方

- ①便器に便袋をセットします。
- ②吸水凝固シートが別付けの場合はセットします。
- ③使用後、脱臭剤をふりかけます。
- ④口をしっかり結び、可燃ごみとして処理します。



※製造メーカーによって中身や使用法が異なります。